

2011年度三重大学人文学部における

F D 活 動

報 告 書

2012年（平成24年）3月
三重大学人文学部

I. 2011 年度FD活動の総括

人文学部のFD活動は2003年度から始まったので、今年度は9年目ということになる。今年度のFD活動の基本方針は、過去9年にわたる基本的な活動を継承しながら、昨年度の反省の上に立って、教員各自の活動を支援していくというものであった。

以上のような基本方針に従って、6月・7月・10月・12月に研修会を開き、学部生・大学院生・教員による授業アンケート等を実施した。昨年度のFD活動の総括でも述べられているが、昨年度は外部講師による講演会を3回開き、「講演会が多すぎた」という意見がかなり目についた。そこで、今年度は講演会を1回に減らして、カリキュラム単位での研修会を増やすことにした。

それゆえ、今年度のカリキュラム単位での研修会の開催は、6月・7月・12月の3回となった。

6月の研修会では、前年度に実施した学生による授業評価アンケートの結果を用いた報告と意見交換を行った。これは、授業アンケートの結果をフィードバックすることを目的として、これまでほぼ毎年実施されてきたものである。そのため、マンネリ感も生じていると指摘されることもあるが、一定の意義も認められ、基本的なFD活動として定着していることから継続することとした。6月の研修会では授業アンケートのWeb入力についても議論してもらったが、これに関しては、後で改めて触れることにしたい。

7月の研修会では、二つのテーマについて議論してもらった。一つは、大学院教育に関するFD活動の一環として、アンケートの必要性・改善方法、「三重の文化と社会」報告会と修士論文発表会の位置づけについてである。多種多様な意見が表明されており、大学院教育に関するFD活動が一筋縄では行かないことが明るみに出された。問題点を整理した上で、引き続き検討する必要があるように思う。もう一つは、リレー講義の改善についてである。中期計画に、「カリキュラム単位で行う授業科目（リレー式授業）について、新しい教育方法や教材を研究開発する」と明記されており、それとの関連を踏まえて議論してもらった。建設的な意見が多く出されているので、一步前進できるように思う。

12月の研修会では、二つのテーマについて意見交換をしてもらった。一つは、授業についての工夫に関する意見交換である。一昨年度までは教員相互の授業参観もFD活動の一つとして行われてきたが、昨年度それをとり止めた。ここ数年低調が続いていたからである。今年度のFD委員会では、すぐ後で触れる外部講師による講演会なども踏まえて、授業参観自体の必要性について議論した。その結果、授業方法の改善のためには、授業参観よりも授業についての工夫に関する意見交換をする方が有益だろうと考えたわけである。もう一つは、例年通り、今年度FD活動の総括と今後に向けての意見交換である。そして、これも例年通り、教員向けのアンケート調査を行った。

外部講師による講演会は、前に述べたように、1回となった。と同時に、「我々のニーズに合った具体的な講演が良い」、「事前の講師との打ち合わせが足りないのではないか」といった講演会への要望にも応えて、今年度は静岡大学人文学部からFD実施委員長の日詰一幸先生をお招きして、静岡大学人文学部におけるFD活動についてお話しいただいた。規模においてはかなり違うものの、同じ地方国立大学の人文学部というところが共通しており、FD活動については一歩も二歩も先んじている静岡大学人文学部からは学ぶべき点が

多いのではないかと考えてのことである。また、昨年度とり止めた教員相互による授業参観に詳しく触れて下さるようお願いした。ご講演の内容の詳細については、本報告書の記録をぜひご覧いただきたい。

ここで、授業評価アンケートについて、二つの問題点を指摘しておきたい。第1は、アンケートの様式の問題である。学部生によるアンケートについては、これまでと同様に、全学的に統一された様式で行った。しかし、昨年度からアンケートの様式が大きく変更された。アンケート用紙の表面は「学びの振り返りシート」であり、裏面が「授業改善のためのアンケート」ということになっている（巻末資料1参照）。そのために、授業評価の質問項目数が大幅に削減され、質問内容も大きく変わってしまい、わけでも、自由記述の設問が「先生に続けてほしいと思うこと」と「自分が先生だったらこうしたいと思うこと」となったことに対して、改善の要望が強い。変更してまだ間もないので、すぐに改善するのは困難かも知れないが、問題点の一つとして指摘しておく。

第2に、授業評価アンケートのWeb入力という問題である。昨年度の後期分のアンケートから、全学的なWebアンケート回答システムが動き出した。従来、教員が紙のアンケートを配布し、学生がそのアンケートを回収していたわけであるが、新システムでは、各教員が授業アンケートを紙で行うか、それともWeb上で回答してもらうか、選択可能となったのである。このような動きを受けて、昨年度のFD委員会では、慎重に検討を加えた結果、後期分は従来通り紙のアンケートを行うこととした。それは、Web回答にすると回収率の低下が予想されること、そして前期と後期で質の違うアンケート結果がでると分析が困難になるという理由からであった。そして、Webアンケートシステムにどう対応すべきか、どう活用すればよいかという点は、今年度のFD委員会で検討すべき大きな課題として引き継がれた。今年度のFD委員会では、まずは6月の研修会で意見聴取を行い、それを踏まえて判断することにした。研修会では賛否両論が展開されたが、FD委員会としては、今年度の前期分については、FD委員だけで試行的にやってみよう判断した。ところが、システムの不具合のために実施できないこととなった。後期のアンケートの時期までには不具合も解消されるだろうと考え、後期分についてもFD委員だけでやってみよう決めて、準備を進めた。しかし、直前になって、実施不能を知らされた。全学の見えざる手に翻弄されたとしか言いようがない。

以上で指摘した二つの問題点は、いずれも人文学部の内部だけで片づくものではない。全学的な対応が必要である。昨年度のFD活動の総括では、学部外での変革の動きに大きく影響された1年間であったと述べられているが、今年度も同じような感慨を抱く。

ともあれ、人文学部としては、全学とも歩調を合わせながら今後も組織としてのFD活動を継続していかなければならない。そうして、学部の委員会としては、外的な状況の変化に柔軟に対応しながら、教員各自のFD活動を支援していくという任務も帯びている。本報告書がそのための一助となれば幸いである。

2012年3月 人文学部 FD委員長 名島利喜